

1. 国民の祝日には国旗をか、げよう
2. 交通規則を正しく守ろう
3. 明るく正しい選挙を実現しよう
4. 小さな親切を広めよう
5. 小さな暴力でも追放しよう
6. 定められた時間は必ず守ろう
7. 環境の美化につとめよう

ながさ

NAGASU

10月号
昭和41年9月25日 発行
通算 第43号

発行者 長洲町中央公民館
発行人 浮島三代喜
編集者 広報長洲編集部
印刷所 中央印刷紙工KK

人口の動き(8月分)
出生 18名(年初めから81名)
男 9名 女 9名
死亡 13名(年初めから51名)
男 7名 女 6名
転入 59名(年初めから312名)
男 34名 女 25名
転出 50名(年初めから457名)
男 23名 女 27名
世帯数 世帯(3,407)
人口 15,621名

子ども会の指導は

人事主義からの脱皮

いずれの国いずれの時代たるを問わず青少年に対する教育に重点が置かれてきた。これは青少年が次代にならざるべきとして期待され、又陶や性に富む時期にあるからである。

青少年に対しては学校教育にその多くをゆだねられがちであるが、元来青少年の育成の基盤は家庭にありこの両者相まって又地域社会のそれと三者が一体となつてはじめて十分な成果を期待することが出来る。

長洲においては伝統的な子供会組織があり、立派な活動をして現在では長洲町を一体にした子供会育成連絡協議会が生まれ各地域に第五次座談会を開き、各単位子供会に「活」を入れていく状況である。

いままでもなく子供会は教育的な目的で組織される。このことは大人や青年の目的意識的な指導をうけるということである。逆に云えば指導がある子供会組織こそが子供会の本来の姿である。

指導は支配とか管理とかと同質のものでない。警察的取締りをすることを指導だと考えたりお説教や訓辞をたれることを指導だと考えている人があつたら

それは間違いである。本当はそんなものは指導とは云えない。少なくとも適切な指導とは云えない。しかし、指導の範囲に一応入れる理由は指導の意図があるからであり、又それも一定の条件のもとでは指導に代つて一定の効果を出すことがあるからである。明治以来の学校教育は道徳教育の名でお説教と取締りを行つてきた。個人個人の如何なる願望も要求も権力の前には断念すべきことを示せばよかつた。権力による威圧が教育と違つたものであるけれども、これすらも教育に代つて効果があつた指導といふことはさし当つて何をなすべきかを明らかにすることである。集団が自主的でないとその目標を集団内部から生み出すことが出来ない。

目標が集団の外部から与えられその目標がスポンサーの都合でたえず動揺すれば集団として目標ある運動を進めせしめることが困難である。このことは集団としての質的な高まりを遂げていくことができないことを意味する。いつまでも同じことを同じように問題として再び提起する停滞的な集団にとどまる子供会が自己運動を起し、団

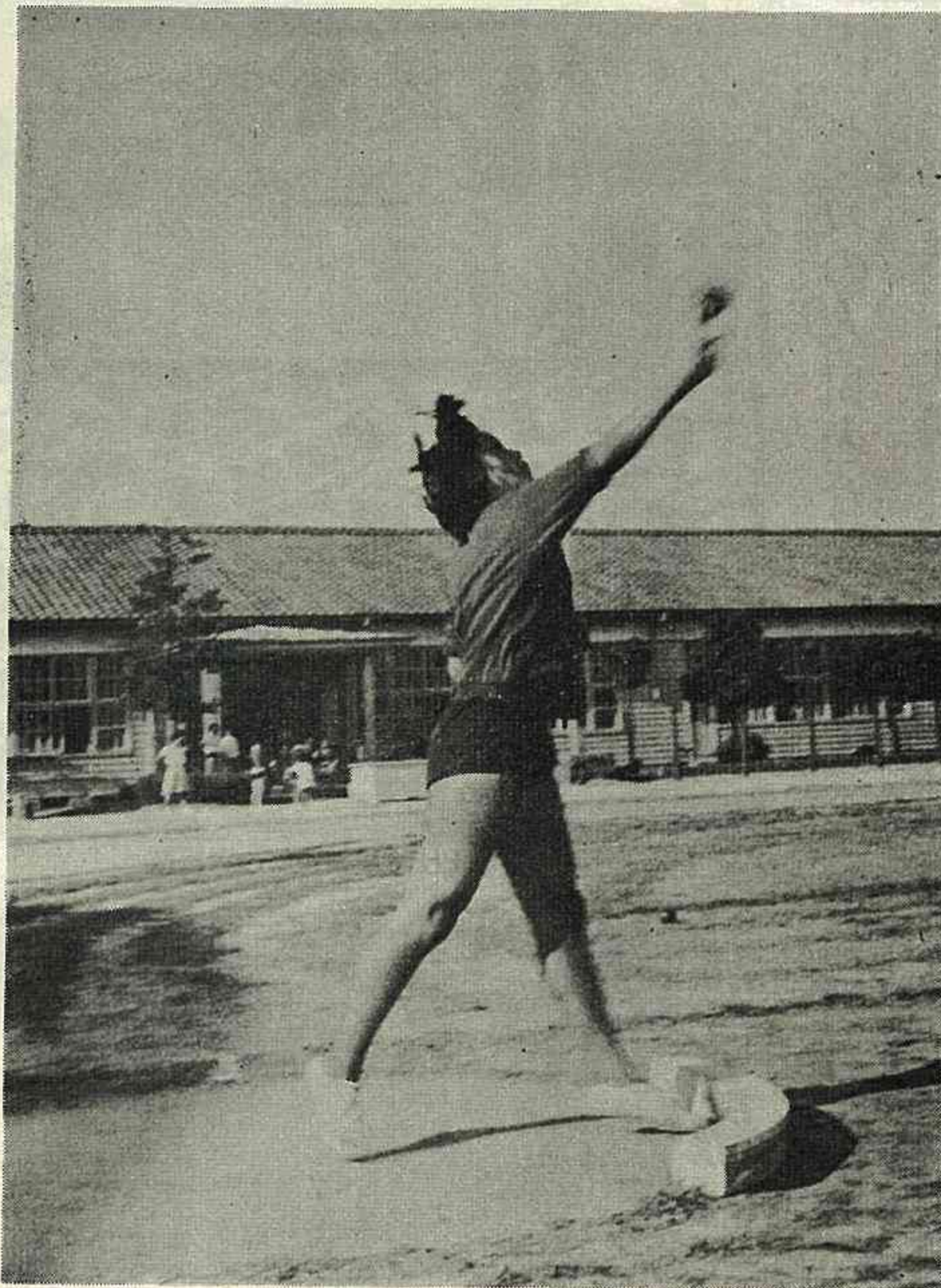
結を強化していくことは到底不可能、指導をお説教と考えることはこの意味で不適当である。昭和32年発足し、当時ボランティアリーダー(有志)によつて進められ今日の発展をとげた地域子供会の子供達の連帯感によつて子供達自身の手による子供会に姿を替え、遊ぶだけの子供会から、遊びを通じてモノを考へる会に発展しつゝあり、リーダーは共通の目的と意識を見出す努力をこらしてきている。

現在の大半の子供会の再編成を真剣にとりくんでいるが、子供達の意志の通じ会える、遊び会える適正な人員でグループ編成をしなければいけないのではない。

子供会はたしかに子供たち自身の手によつて人事主義、人事主義、人事主義といふ大人考へた子供会からの脱皮を試みていく。

このことは彼らのみの責任に負わせるべきでない、学校、家庭、社会の大人たちの協力があつてこそ実現可能である、が今ではボランティアリーダーの活躍にベッタリになつて他の大人たちの社会的責任をおろそかにしているのではないか。

今日種々の問題をかゝるながら住民の子供会に対する理解を深め、力強い協力体制をつくりだす段階に立っている。



日本新記録の林加代子さん(長洲中)

☆町政日記より

- | | |
|--------------------|----------------|
| (8月1日~9月26日) | 7日・民生委員会 |
| 8日・日本脳炎予防注射 | 6日・総務建築委員会 |
| 5日・農免道路現地調査 | 7日・玉名郡消防大会(港湾) |
| ・民生委員会 | 8日・文教委員会 |
| 8日・農業構造改善部落座談会(塩屋) | ・百子予防注射(六栄) |
| 9日・(永方) | 9日・経済委員会 |
| ・農免道路部落座談会(立野) | ・パイロット事業説明会 |
| 10日・交通安全街頭指導 | 12日・老人検診 |
| ・第5回臨時議会 | ・郡畜産品評会選考会 |
| 16日・果実品評会 | 13日・国保運営委員会 |
| 19日・玉名郡教育長会 | ・老人検診 |
| 20日・選挙管理委員会 | ・農業構造改善協議会 |
| 23日・駐在員会 | 15日・敬老会 |
| 24日・消防団正副団長会 | 16日・老人検診 |
| 26日・葉たばこ品評会 | 19日・農構改永塩地区期成会 |
| 29日・下区カーペット共同防除 | ・はりきゆあんま無料サービス |
| 30日・給食センター建築委員会 | 20日・選挙管理委員会 |
| 9日・果樹組合役員会 | 21日・老人検診 |
| 2日・消防団分団長会議 | 22日・みかん立木品評会 |
| 5日・老人会会長会 | 26日・定例町議会 |

選挙期日 十月十三日
投票時間 午前七時から午後六時まで
立候補の届出期間 十月六日から十月九日まで
選挙による委員数 十二人
委員の任期 三年

十月三十日任期満了する、農業委員会委員選挙が、十月十三日執行されることになりました。有権者すべての人が選挙に参加して、明るく正しい選挙が行なわれ、立派な代表者を選び、権をなさぬよう進んで投票いたしましょう。

一、選挙運動の制限(主なもの)
○選挙権及び被選挙権を有しない者の選挙運動の禁止
○戸別訪問の禁止
○連呼行為の禁止、但し演説会場及び街頭演説の場所においてはできる

○個人演説会開催申出、開催すべき日前二日まで文書で委員会に申出
○夜間の街頭演説の禁止、午後九時から翌日午前六時までの間は選挙運動のため、街頭演説をすることができない
○特定の建物及び施設における

演説の禁止、(国、地方公共団体、日本国有鉄道、日本専売公社、日本電信電話公社、汽車、電車、乗合自動車、船舶及び停車場その他鉄道地内病院、診療所その他の療養施設

「農業委員会委員選挙」

農家の皆さん
みんなそろって
明るく正しく

「明るく正しい選挙」

推進の研修会に出席して

結びが明るく正しい選挙それはやれば必ず成るといふ確信のある言葉だ。勿論、十九票という僅少差で当落がきまらぬ激しい村長選挙の裏には違反者も出たという。しかし現金を渡さずとした運動員に金を返した人も多かった。月の選挙までの同主事の日程は驚くほど縮密に組まれていた。夜も遅い部落は泊りこみで部落座談会を開き、なぜ選挙は明るいものでなければならぬか、村民の中に入りこんで徹底的に話し合ったという。勿論、婦人学級成人学級の政治学習は強力に進められていた。告示が終つて六日間、つづけて華ばなし、リーダーをしたという事である。選挙婦人会青年団は勿論、事務所及び隣接町村の応援のもと選挙運動にも負けない明るい正しい選挙のバレーだ。たつたことである。

郡単位の推進協議会の発足が玉名郡にも一日も早くできたらお互いに手をとりあつて明るく正しい選挙の実現に邁進したいものと切に願つて長洲町にかへつてきた。

さざなみ

◎九月中旬の台風二二号を境に、長かつた暑い気候から急に朝夕は肌寒い冷気を覚ゆる秋深き候となつた。早急に苦しんだ農家の人たちに待望の慈雨をもたらしてくれた。街行く人々も冷気に追われるように夏の装いからシックな秋の装いへと衣更えをした。◎九月十五日、敬老の日。始めて迎える国民の祝日としての敬老の日、長洲町は敬老会を行なつた。早朝から各戸に掲げられた日の丸の旗が青い秋の空に映えて美しく保持よかつた。今年の高令招待者三二名、昨年から約二〇名の減である。長洲町の八〇才以上の高令者は年々減少している傾向にある。しかし、高令者が全国的には年々増加しているのが現実のようである。九月二十五日家庭教育学級の講師として呼んだ熊木女子大学教授の伊藤先生の言によれば、老人会等では、もつと適度の体育をその会活動の中に取り入れて、身体を若返りを図るべきだとの話であつた。そして、十年後には、日本でも定年八〇才になることは必然であるとのことであつた。◎長洲の金魚は、東の郡山と並び称される西日本の有名な生産地であることは町中の人が恐らく知つていられるであらう。しかし、金魚が誰によつて、何時頃から長洲で養殖されたかについては、案外知つていない人は少ないだろう。最近では毎年のように玉高等の高校生から小、中学校の生徒まで社会科見学として長洲を訪れる。又、電話や手紙等で公民館に金魚についての問い合わせがよくある。しかし、残念ながら、本町における金魚の歴史について研究した本は未だ一冊もない。将来、本町産業や観光の最大のホープとなるべき金魚について、町の有志や学校のクラブ活動で是非取り上げて研究してもらいたいと思う。その参考として、三百年前の細川家の奉書(日記)の中に、長洲の金魚についての記事があるとの話を県史編さん委員の花岡先生から聞いたことをお知らせしたい。この記事から、永宝、寛永、正宝、慶安年間に既に長洲に金魚を養殖していたことが推定される。◎九月二十九日、仲秋の名月。豊年の秋祭りも真近かである。(林田)

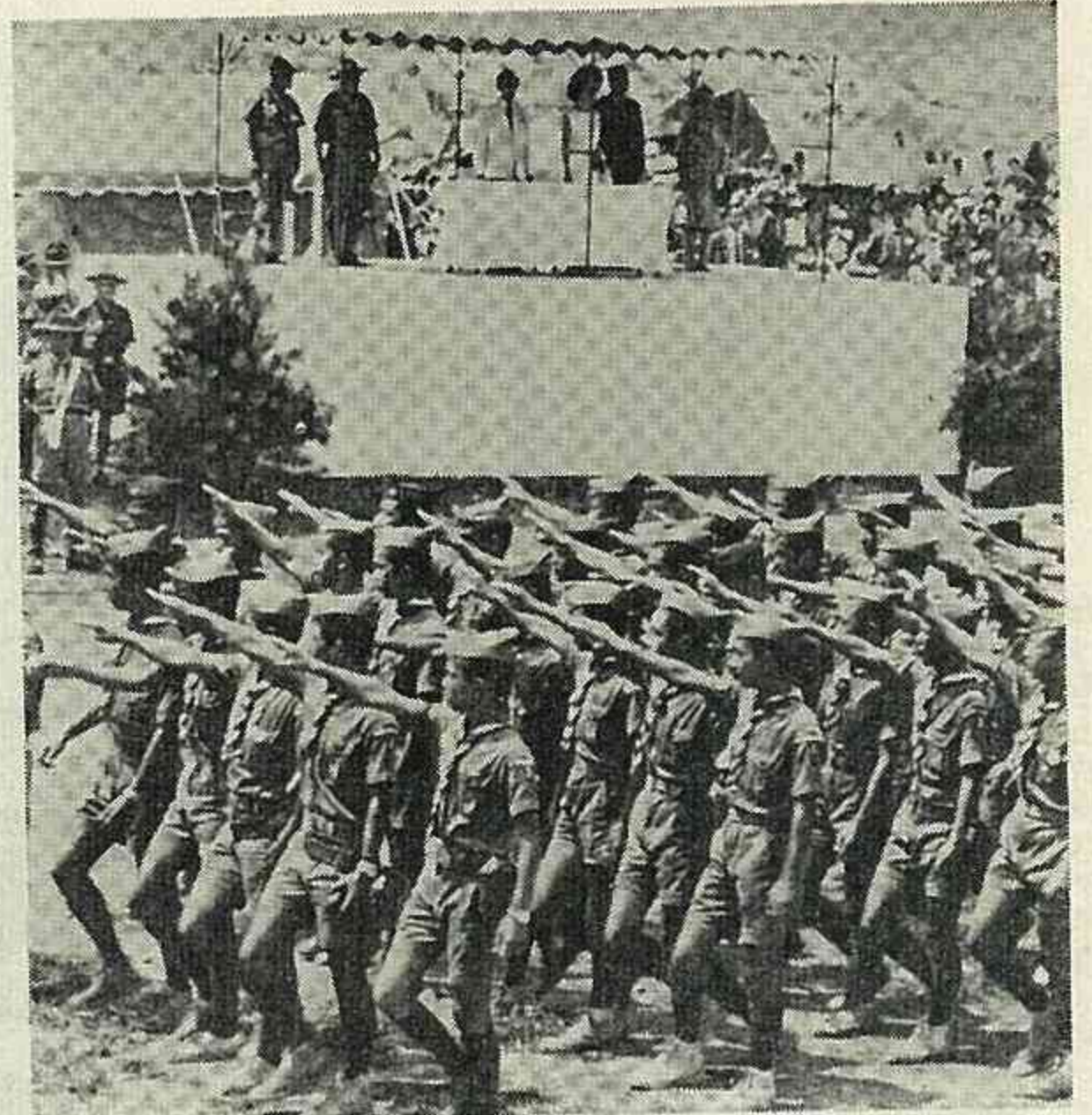
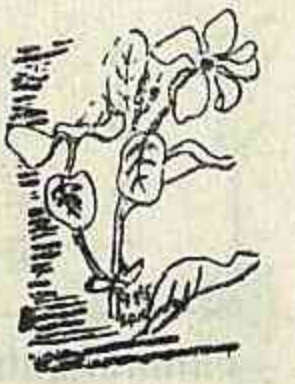
ボーイスカウトの祭典、第4回日本ジャンボリーは、8月5日から9日まで岡山県勝田郡奈義町と勝北町にまたがる日本原で幕を開いた。このジャンボリーに長洲第1団ボーイスカウトが参加しました。町と有志の方々の強力な援助のおかげです。有難うございました。以下その状況報告です。



朝の散歩 (日本原で)

若さと友情の花開く

◇ジャンボリー参加記録◇



土煙りを上げて視察台前の大行進

一〇万の人口となる 日本原の高原

八月三日
午前十一時三〇分、すべての準備を完了、十二時三〇分より町長、築地団委員長、浮島教育長をはじめ、団委員長、育成会役員職員、ガールスカウト等多数の参列のもとに壮行会が行われ、午後一時十五分全員、希望にもえて児童館前を出発熊本へ向う。

八月四日
朝もやにまつまれて明けゆく中国路をバスは休みなく走りつづけている。右に波静かな瀬戸の海、左には緑あざやかな松林九州では見られない景色であった。瀬戸内工業地帯の発展は目ざましく、徳山を中心として石油工業、倉敷のせんい工業、呉因島の造船業とすばらしいものであった。

岡山市で朝食の後、津山市に入ると歓迎のアーチや横断幕、スカウトの姿も見られ、隊員一同喜びにあふれたのもしいかぎりである。
十三時三〇分県連サイト着、一同中食ぬきで、荷物運搬やサイトの設置にかかった、熊本を出て十九時三十分、さすがの

高校生、各地区スカウトの演技大会を見学した、各代表ともその地域の特色を織りこんでジャンボリーの祭典を盛りあげた。演技大会も終りに近づいた時、連日四十度近い猛暑になやまされていた我々にとつては全くの慈雨が降りそそぎ野営場一面涼気に満たされた。

八月五日
昨日までまばらに建っていた日本原のテント村も一日のうちに人口三万の都市とかわってしまった。

八月六日
六時起床、朝食、点検、県連朝会と日課のスタートが切られた。午前中サイトの展開、午後三時開会式参加のため集合、熊本県はトップを切って大会場に入場した。全国のスカウト三万は午後五時には中央アリーナを全くとすめつくした。右も左も真黒に焼けた顔、顔、顔、原隊でのきびしいスカウティングをつみあげた、たくましい雄々しい顔だ。日本スカウトの整列が

八月七日
十時より各宗派にわかれての日曜礼拝、我々は中央アリーナでの仏教の礼拝に参加した。原隊ではできないような壮健な礼拝が行われ、初めての者にとつてはよい勉強になった。

八月八日
午前八時日本原発、中国山脈を横断して鳥取砂丘へと向う。標高千二百四十メートルの那岐山を越えるあたりでは平地で見られない家の構造がなされ、棟は高く屋根の傾斜を急にして雪のすべりを良くしたり、瓦にうわぐすりをして自然と人間との闘い、先人の工夫が見られた。特にめづらしかったのは、屋根の上に石が一面ならべられたように台風に見舞われる所でも

野営の思い出を 心に焼きつけて



皇太子御夫妻をお迎えしての行事とあって、スカウト三万、一般の見学団およそ七万と言われ十万人の大都市にふくれあがった日本原は興奮のつぼと化した。

八月九日
ジャンボリーの日程は今夜の閉会式で終了となる。先日の大行進の時の様子から考えて、三万人のスカウトが一斉にバスに乗車して動き出したとしても約六百台のバスそれにトラック、乗用車あわせて九百台近くの車が一方通行の道路をどうして出て行くか、県連でも研究討議を

皇太子御夫妻をお迎えしての行事とあって、スカウト三万、一般の見学団およそ七万と言われ十万人の大都市にふくれあがった日本原は興奮のつぼと化した。空には各新聞社の飛行機、ヘリコプターが乱舞し、地にはスカウトが隊旗、国旗、幟りをおかして、胸を張り堂々の行進を行なった。皇太子御夫妻もまっ黒に日やけた若人に喜びの眼を親しく向けられ会釈を賜わった。スカウトの目は輝き生涯の感激をしっかりと身に受けとめて一歩一歩ふみしめていた。

重ねた結果、午前中に撤収完了を目標に作業を進めることになった。午前五時起床、食事の用意ができる間に個人の装備の整理を終り、次で原隊のテントの撤収にうつった。四日から次々の居住区となつた地域が次々と見られるにつれて何となく名残りのない思いで一ぱいであった。

八月十日
午前八時三十分湯田温泉をあとに下関水族館へと向った。昨夜の夢がたりないのかバスの中もこっくり、こっくりと寝ている者が相当にあった。本州をあとにして東洋一の「若戸大橋」から北九州工業地帯の活気あふれた生産の状況をながめつつ一路熊本へと向う。

八月十一日
午前八時三十分湯田温泉をあとに下関水族館へと向った。昨夜の夢がたりないのかバスの中もこっくり、こっくりと寝ている者が相当にあった。本州をあとにして東洋一の「若戸大橋」から北九州工業地帯の活気あふれた生産の状況をながめつつ一路熊本へと向う。

洞へ入る。三十六度の外気とは全く切りはなされた洞内は十七度の別天地で肌寒い洞内は十七度の青天井、百枚皿、千町田、傘づくし、黄金柱、など自然の作りだした美しさと絶妙にただ噴声をもらすだけであった。

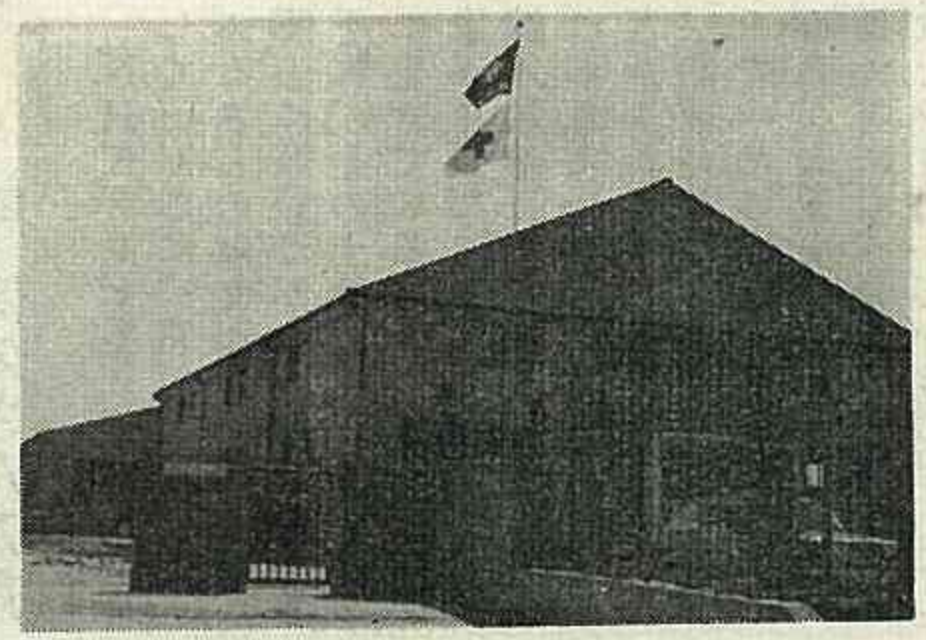
八月十二日
午前八時三十分湯田温泉をあとに下関水族館へと向った。昨夜の夢がたりないのかバスの中もこっくり、こっくりと寝ている者が相当にあった。本州をあとにして東洋一の「若戸大橋」から北九州工業地帯の活気あふれた生産の状況をながめつつ一路熊本へと向う。

最後に派遣隊がここに大きな成果を得ることができたことについては、団委員長各位のみなならぬ御尽力とそれに協力していただいた町当局、町民各位のスカウト活動に対する心からなる御援助を賜わったためであることを申し上げたい。本場にありがとうございました。

- 第四回日本ジャンボリー 派遣隊長 長洲第一隊長 浦野一男 第二隊長 中島 敏

九州井上ゴム操業開始

八月十三日



工場に開所と同時に赴任して来た人たちは...

ロッカーが一隅においてあり、テール越しの西の壁にテレビが備えつけてある...

この会社の社是は、(一)無災害無事故の達成(二)健康で明るい職場づくり(三)不良の絶滅と精神の向上...

日本記録をつぎつぎに更新

林加代子さん城北陸上に日本新で優勝

長洲町の中等教育の中で現在程スポーツの盛んな時はなかった...

習生活はこたえませんでした。あなたの今後の目標は...

「社明運動応募作文」 入選

七月一日から三十一日まで、社会を明るくする運動月間という...

七月は社会を明るくする運動の月間であり、この趣旨は総ての国民が犯罪の防止と、不...

作って、二時間におたる汗の行進をしてPRしたのは、何よりの収穫でした...

放牛地蔵

〇地蔵信仰

無学な衆生がただ念仏によって済度されているように、何か他力によって済度されたいと願う姿が民芸品の美の姿ではないだろうか。

長洲の町にも路傍の片隅に石仏が長い間民衆の生活の中に多く生きていたのを私は知っています...

〇放牛地蔵の由来 今を去る二八〇年前、細川五代綱利公の頃、熊本城下古大...

郷土の遺蹟を訪ねて

上沖洲の放牛地蔵

工町に貧しい鍛冶職の親子が細々と生活をしてきた。父は七左衛門、無類の酒好きの怠け者の...

と哀願する孝子の願いはいれられず、源左衛門は七左衛門を一刀のもとに切捨ててしまった。

四方池台の墓地に葬られた。放牛地蔵は肥後の各地に建てられているが、熊本市に六四体...

〇最後に どうぞ路傍の石仏を大切にしてください。念仏により済度されんと願った昔の人々の心にかよいた...

〇ぬす人も とらるる我ももろともにおなじ蓮の うてななるらむ

〇何をか思ふ 何をかながく世の中は 転寝の花の上の露

〇親の前 不孝の身に神仏 助け給えといふぞおかしき

〇何をか思ふ 何をかながく世の中は 転寝の花の上の露



〇放牛地蔵の歌 放牛はこの年の十一月八日大往生をとげた。熊本市横手町の不明である。

地蔵の台石に刻銘された歌がある。この数首を紹介する。

私達の町は「長洲海岸の落日」として西の空に夕暮の景色の美しさは、熊本県の中でも有名です。

私達は、みんなが寄り集って社会を作っておりますから、自分かたてなことを考えたりしないで、みんなが楽しく、気持ちよく生きていくように努力したいものです。

〇何をか思ふ 何をかながく世の中は 転寝の花の上の露

温い愛の手を

浜田隆志

とです。私は友達二人とたんぼで魚つりをして帰りました。ピクピクとうき動き出すのを今か今かとじっと見つめていました...

ま、行けばききものも足もピシヨぬれになったでしょう。おじいさんは友達の方を向いてニッコリわらって「ありがたう」と言...

